

私の身近では捨て猫を保護している話をよく聞きます。我が家でも捨て猫の飼い主さがしをしたり、近所で増えて困っているお宅には不妊・去勢手術の大切さをお話ししてきました。

しかし、次から次へと捨て猫が後を絶たず、個人で保護と新しい飼い主探しをしているだけではとても追いつかないと感じていました。やがて我が家で抱える猫が増えてしまい、途方に暮れている時に「ねこの会」のパネル展で地域猫の活動を知りました。

「ねこの会」は「猫と人が一緒に暮らしていただけるための社会づくりをしていこう」という動物愛護ボランティアグループで、まさに理想の活動をしている会だと思いました。先日、松本で行われた“ねこのニャンでも講座”に参加しました。保健所と動物愛護会、獣医師、ボランティアが協力して行っている猫の適正飼養や終生飼養などの普及や啓発のための勉強会です。私自身十年以上も猫と暮らしてきましたが、新しい発見があり、とても勉強になりました。今、猫を飼っている人や飼いたいと思っている人は是非この講座で学んで欲しいし、また、猫で困っている人や悩んでいる人も参加して問題解決の糸口にしていただきたいと思います。私もこの会の仲間として、人と猫が共生できる社会づくりに力を注ぎ、自分の住んでいるこの地域から少しずつ変えていきたいと感じています。

かわいい猫のために

中村 佐智子

3年半位前、40歳を少し過ぎて、神様の思し召しなのか（余生を猫と過ごすように?!）突然猫が欲しくなった。今まで猫に接することなど1度もなく、不安と共に迎えた元気のいい小さな子猫は、あつという間に私をとりこにした。

猫がこんなにかわいいなんて、飼ってみるまで全くわからなかった！とにかく何をしてもかわいい。かわいくて仕方がない。猫が気持ち良さそうに寝ている姿を眺めているととても幸せな気分になる。

猫好きになると、あらゆる猫の情報に目がいく。知りたくはない現実も知ってしまう。

度々起こる虐待事件はどんなニュースより憤りを覚える。弱いものに対してあまりに残酷なことをする卑劣な人間が後を絶たない。

毎年殺処分される猫が減らず、松本でも一昨年は、1300匹余もいたという。麻袋に入れられて死を待つ。どんなに怖い思いをするだろう。猫にだって感情があるのだ。保健所に持ち込む人は、安楽死などではなく苦しみながら死んでいくという現実を知っているのだろうか。

この春、知人から届けられた「またたび通信」で「ねこの会」の仲間に出会いました。会の明確な趣旨、説得力のある代表と事務局からのメッセージ。その後の先達ボランティアとしての惜しみない支援の質と量「判らないことは何でも聞いて」と胸襟全開の事務局、このオープンマインドのエネルギーは、猫へはもちろんそれと介した人間に向けられた彼らの「ヒューマンスケール」に源ありと実感しています。ボランティア活動ゆえに行動の判断分岐の折に自分のありのままをも自覚させられる事が多く、そして、このことが実は自分としっかり向き合う大切なチャンスと考えています。実に有難いことです。自らの環境改善手段を何ひとつ持たない猫に代わってというよりは、猫の現実を現実たらしめている人間の一人として、出来るだけ誠実に「ねこの会」の会員として歩みたいと思います。



家のない猫たちの大半がたどる厳しい現実。ただ泣いても、かわいそうだと思っても何も変わらない。地域猫の世話をしたり、捕獲しては不妊・去勢手術をさせるという行動に出ている皆さんには本当に頭が下がる。私にも何かできるだろうか…。

まず、足元の1匹を助けよう、各々ができることを、すればいい、と、あるホームページで見た。

かわいい猫たちにはいつものんびりとぬくぬくと、幸せに暮らして欲しい。

